事務事業マネジメントシート(令和 7年度実績と令和 8年度計画)

令和 8年10月28日更新

事務事業名	指定文化財保存・管理事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	前田
業務分野	44	歴史・伝統文化(文化財を含む)の保護と継承	所属班	生涯学習班	(内線)	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	文化財保護法
	一般	10	5	7	10915		

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返 (開始年度 18 年度) □期間限定複数年度 (～ 年度)

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む)	文化財の適正な保存・管理を委託することで、文化財を保護し、市民に郷土史学習の場を提供した。開始年度は不明。文化財の中には、放置しておくと破損・消滅・散逸が懸念されるものもある。その危険性の高い文化財について、保護・活用を促進するために地元区等に清掃管理等を委託することとなった。新たに管理が必要となる文化財も認められ、徐々にではあるが経年とともに委託件数が増加している。主な内容は、整備業務や修繕業務であった。 また、埋蔵文化財の把握、周知により遺跡の保護および開発事業との調整を図った。遺跡内での開発事業等による埋蔵文化財の棄損・消失を防ぎ、保護するために開始された。開発事業の件数増加に伴い、包蔵地確認調査業務として重機掘削委託料を計上した。
【業務の流れ】	・管理委託先の選定→委託契約→管理状況確認→管理報告書の確認→管理委託料の支払 ・古くなった標柱の立替、説明看板の設置 ・包蔵地の事前調査で使用する重機掘削の委託 ・熊本県市町村文化財担当者連絡協議会等負担金
【主な予算費目】	報酬、 職員手当等、 旅費、 需用費(消耗品費)、 役務費、 委託料、 使用料及び賃借料、 工事請負費、 負担金補助及び交付金

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成。【内容】文化財の適正な保存・管理を委託することで、文化財を保護し、市民に郷土史学習の場を提供した。また、埋蔵文化財の把握、周知により遺跡の保護および開発事業との調整を図った。【実績】文化財管理を11箇所を委託した(二子山石器製作遺跡・三ツ石〔シルバー人材センター〕、黒松古墳群・合志義塾跡駐車場〔黒松区〕、虚空蔵さん〔上庄区〕、豊岡宮本横穴群〔上庄区〕、医音寺跡〔上町老人会〕、生坪塚山古墳・石立石棺〔生坪区〕、笹塚古墳〔所有者〕、桑鶴遺跡〔出分区〕)。埋蔵文化財包蔵地予備調査(試掘・確認調査)を行った。埋蔵文化財試掘・確認調査報告書を作成し関係機関に発送した。地元より社寺の管理が困難である相談を受け、令和2年度より社寺神仏像調査を実施した。調査依頼を熊本県立美術館等に依頼している。国登録有形文化財として菊池恵楓園旧事務所本館一棟を9月に登録した。熊本県文化課の中九州横断道に伴う竹迫城惣構え跡発掘調査現地説明会では、文化財保護委員や地域住民に参加を促し多数の参加者があった。また、今後開発の増加が予想されるため遺跡地図及び埋蔵文化財試掘・確認調査をGISデータで閲覧できるように環境整備を行うとともに景観が大きく変わることから、竹迫城跡より周辺の空中撮影により記録保存を行った。【成果】文化の振興及び郷土愛の醸成を図ることができた。

②8年度計画(次年度に計画している主な内容)	③予算の主な増減の理由
文化財管理を委託する予定。また、腐食している説明看板・標柱の立替。指定予定の文化財と整備・保存。 各種協議会での情報交換、研修への参加。 国庫補助金による埋蔵文化財試掘・確認調査及び年報の発刊。	遺跡跡地樹木伐採による委託料の増

	成果指標	(単位)	データ取得方法
⇒ア	指定文化財のうち適正に管理できたものの割合	%	
⇒イ			
⇒ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア	%	100	100	100	100	100	100	100	100
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円	1,491	1,102	2,162	1,534	2,162	2,162	2,162	2,162
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	540	50						
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	7,622	8,087	7,164	6,916	11,410	20,410	10,410	10,410
	(A) 事業費計	千円	9,653	9,239	9,326	8,450	13,572	22,572	12,572	12,572

(3)評価の総括(成果向上の余地・事業費削減の余地)

文化財の適正な保存・管理を委託することで、文化財を保護し、市民に郷土史学習の場を提供することができた。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月11日更新

事務事業名	文化財保護委員会運営事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 □「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	前田
業務分野	44	歴史・伝統文化（文化財を含む）の保護と継承	所属班	生涯学習班	（内線）	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	終了、開始年度	事業期間
	一般	10	5	7	10925	文化財保護法 合志市文化財保護条例	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	文化財保護委員会運営事業は、文化財保護法・熊本県文化財保護条例の規程に基づき、合志市教育委員会の諮問機関として設置された、文化財保護委員会の運営を行うものである。合志市内に現存する文化財の維持・保存・啓発活動に努めることを通して、文化財に対する市民の認識を深めると共に、郷土愛・文化財尊重の意識を高めることを目的としている。前述の目的を達成するため、昭和43年に文化財保護委員会を設置し、年4回の会議を開催している。その中で、文化財の指定・保存活用及び、文化財の調査・情報収集、文化財の指定・解除に関する協議等を行った。
【業務の流れ】	①年4回の会議 ②熊本県文化財保護研修会への参加 ③文化財の調査・情報収集
【主な予算費目】	報酬、報償費、旅費（費用弁償）、役務費

(1)事務事業の振り返り・計画

① 7年度事務事業の成果・実績

【目的】合志市の区域内に存在する文化財のうち、合志市にとって重要なものを指定して、その維持保存に必要な措置を講じ、また、郷土文化財についての認識を深め、もって郷土住民の文化財尊重の思想を高揚せしめること。【内容】年3～4回実施の文化財保護委員会や県文化財保護協会の各種研修への参加等を通して、本市文化財についての認識を深めるとともに、本市文化財の調査、発見及び保護に努め、市教育委員会の諮問機関としての役割を担う。【実績】文化財保護委員会を4回行った。文化財の調査、情報収集、各種研修等への参加を行った。文化財パトロールや看板などの現状把握を行った。【成果】上記活動を通じて、文化財尊重の意識を高め、郷土愛の醸成に寄与した。

② 8年度計画（次年度に計画している主な内容）

・文化財保護委員会（年４回）、文化財の調査・情報収集、各種研修等への参加を行う予定。
・文化財の保存管理及び活用についての検討

③予算の主な増減の理由

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	文化財保護に貢献した委員の割合	%	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	%	100	100	100	100	100	100	100	100
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	187	165	193	141	193	193	193	193
	（A）事業費計		千円	187	165	193	141	193	193	193	193

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

文化財保護委員会を年3回計画通り開催し、文化財の指定・解除に係る審議や調査・情報収集を適切に実施した。また、県保護協会主催の研修会等へ積極的に参加することで、保護委員の専門的知見や資質の向上を図り、適正な文化財保護体制の維持・推進に努めることができた。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月11日更新

事務事業名	合志市歴史資料館運営事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 □「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
	政策	3	教育の健幸				
	施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	前田
	業務分野	44	歴史・伝統文化（文化財を含む）の保護と継承	所属班	生涯学習班	（内線）	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	7	10923	

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	平成7年度、合志歴史資料館及び西合志郷土資料館完成。それに伴い事業開始。歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に１回合志歴史資料館にて特別展を開催した。子ども歴史科学体験教室については、子どもたちの体験活動支援事業として平成16年度開始。郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供することを目的として設立。現在残されている貴重な史料は、経年による劣化や破損、散逸の危険性が増えていく。それに伴い、保護して後世に残すべき史料は少しずつ増加すると思われる。また、子ども歴史科学体験教室については、一定の参加者がある。平成26年度より10836合志市郷土・歴史資料館維持管理事業を統合。平成29年度7月より両資料館を合志歴史資料館に統一し、西合志郷土資料館を合志マンガミュージアムにリニューアルした。合志歴史資料館は、平成28年熊本地震以降、被害にあった合志市総合センターヴィーブルの復旧工事に合わせ、平成29年度末まで休館。平成30年4月に合志市歴史資料館としてリニューアルオープンした。
【業務の流れ】	展示物、収蔵資料の整理、保管。展示物および収蔵資料の保管。市史編纂資料の収集・作成、体験教室・企画展の開催。
【主な予算費目】	報酬、 職員手当等、 報償費、 旅費、 需用費、 委託料、 使用料及び賃借料

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成【内容】歴史資料館長を1人配置し歴史資料等の収集・保管・管理及び展示を行なった。文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスを複数回実施。年に1回合志歴史資料館にて特別展を開催した。【実績】歴史資料館事業として「子ども歴史科学体験教室」全9回（参加者892名）や資料館学習を13団体（593名）に実施することができ、学習等の機会の提供に努めた。「ふるさと探訪まちめぐりバス」の開催を7回実施し、132名が参加した。合志市ふるさとカルタ札を巡るとバスツアーを8地区のサロンなどを対象に実施した。小学校と連携し、学校周辺の文化財を見学する出前講座を3回行った。また、資料館内の故障していた竹迫城解説動画をタブレットで閲覧できるようにした。その他、電子図書の郷土資料として民話「合志の昔話」（音声版）等を掲載した。令和7年9月1日から令和8年2月28日までの間に、「歴史資料館特別展　原田茂の遺したもの展」を開催した（来館者数は1，103人）。【成果】多くの市民に参加していただき、文化財の郷土愛の醸成を図ることができた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

・ふるさと探訪まちめぐりバス
・子ども歴史・科学体験教室
・竹迫城解説動画、合志市昔話映像編集
・歴史資料の収蔵・展示・収集・適正な管理・調査・研究

③予算の主な増減の理由

人事院勧告による会計年度任用職員報酬の増

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	来館者数	人	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標	ア		人	2,085	3,206	4,500	2,411	4,500	4,500	4,500	4,500
	イ										
	ウ										
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円					92	92	92	92
		地方債	千円								
		その他	千円	115	70	92	129				
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	2,563	3,207	3,388	3,479	3,438	3,438	3,438	3,438
	（A）事業費計		千円	2,678	3,277	3,480	3,608	3,530	3,530	3,530	3,530

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

文化財保護の啓発および市民の郷土史学習の支援として、ふるさと探訪まちめぐりバスや子ども歴史・科学体験教室を複数回実施し、郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供することができた。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年 9月11日更新

事務事業名	伝統郷土芸能等支援事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	□「こどもまんなか社会」の構築	□産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	教育委員会事務局	課長名	渡辺
政策	3	教育の健幸					
施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	生涯学習課	担当者名	前田
業務分野	44	歴史・伝統文化（文化財を含む）の保護と継承	所属班	生涯学習班	（内線）	1502

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	10	5	7	10927	文化財保護法 合志市社会教育関係団体活動事業補助金交付要綱

終了、開始年度	□ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 （開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	地域の伝統・文化・芸能・歴史を学ぶことを通して、郷土愛を醸成し、それらを伝承していく後継者の育成支援（上ノ庄城山まつり・合志市郷土史愛好会・竹迫観音祭り実行委員会・須屋神楽保存会・西合志弁天太鼓保存会・須屋小屋地蔵祭実行委員会・弘生ウソ替の会・須屋太鼓保存会・黒石神楽保存会・合志町高千穂神楽保存会）を目的としている。 　また、伝統郷土芸能の保存・振興を図ることを目的として開始されたが、少子高齢化や、若者の都市部への流出などにより、後継者の育成や確保が困難になっている団体もある。今後、そのような団体に対して、どのような方策を取っていくかが課題となっている。
【業務の流れ】	補助金交付に係る申請の受理・審査・交付決定・支払・交付確定
【主な予算費目】	負担金補助および交付金（補助金）

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【目的】生涯学習の振興を図るため、社会教育団体等に対し、予算の範囲内において補助金等を交付する。【内容】補助金を交付し、各種保存団体等の後継者育成支援、伝統芸能等の活動存続に繋げる。【実績】補助金交付による各種保存会等（申請があった7団体）への支援を行った。4月の竹迫初市では、5年振りに総合センター「ヴィーブル」で開催され、歴史資料館も合同で文化会館において「昭和100年写真展」展示や過去の祭り映像を記録した動画などの視聴コーナーを設け、2000人を超える見学者があった。【成果】補助金交付を通じて、各種保存団体等の後継者育成支援、伝統芸能等の活動の存続及び郷土愛の醸成を図ることができた。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

補助金交付による各種保存会等（7団体）への支援や、各種助成金等の案内を行った。

③予算の主な増減の理由

須屋太鼓保存会の活動休止による補助金の減

成果指標			(単位)	データ取得方法
⇒	ア	保存・継承できた保存団体の割合	%	
	イ			
	ウ			

(2)成果指標・総事業費の推移

			単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	8年度 目標(当初予算)	9年度 予定	10年度 見込	11年度 見込
成果指標		ア	%	100	87	100	90	100	100	100	100
		イ									
		ウ									
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	497	439	599	527	599	599	599	599
	（A）事業費計		千円	497	439	599	527	599	599	599	599

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

伝統郷土芸能を保存・伝承する7団体に対し、活動経費の補助を適切に実施した。少子高齢化等の影響で活動の維持が難しくなる中、用具の修繕や後継者育成に要する経費を支援することで、各団体の意欲向上と活動の継続性を確保し、地域固有の文化遺産の継承に寄与することができた。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 ☑現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

事務事業マネジメントシート（令和 7年度実績と令和 8年度計画）

令和 8年10月 2日更新

事務事業名	竹迫初市振興会活動支援事業	□安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 □「こどもまんなか社会」の構築 □産業の共生による市経済の持続的発展

総合計画体系				所属部	産業振興部	課長名	榮 峰男
政策	3	教育の健幸					
施策	13	歴史・伝統・文化を活かした郷土愛の醸成	所属課	商工振興課	担当者名	樋口 良平	
業務分野	44	歴史・伝統文化（文化財を含む）の保護と継承	所属班	商工振興班	（内線）	5215	

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠
	一般	7	1	2	10926	

終了、開始年度	☑ 7年度で終了 □ 7年度から開始	事業期間	□単年度のみ ☑単年度繰返（開始年度 18 年度） □期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化・関係者からの意見や要望を含む）	【前年度内容】地域の観光資源である竹迫初市を実施する振興会（商工会、関係地区の区長、市、農協等で組織）を助成し、地域振興を図る。 コロナ禍以降は開催されておらず、令和6年度も未実施の予定。 令和7年度以降は、生涯学習課へ事業を移管するところで協議済み。
【業務の流れ】	【前年度内容】申請受付、交付決定、支払、実績報告　調整会議等への出席及び市広報等PRなどの支援
【主な予算費目】	【前年度内容】補助金

(1)事務事業の振り返り・計画

①7年度事務事業の成果・実績

【前年度内容】竹迫初市振興会により、令和６年度の竹迫初市は開催されなかった。

②8年度計画（次年度に計画している主な内容）

【前年度内容】生涯学習課へ事業を移管するところで協議済み。

③予算の主な増減の理由

【前年度内容】伝統郷土芸能等支援事業（生涯学習課）への事業統廃合による補助金の減。

成果指標		(単位)	データ取得方法
⇒	ア		
	イ		
	ウ		

(2)成果指標・総事業費の推移

		単位	5年度 実績(決算)	6年度 実績(決算)	7年度 目標(当初予算)	7年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
成果指標	ア									
	イ									
	ウ									
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円								
	（A）事業費計	千円	0	0	0	0				

(3)評価の総括（成果向上の余地・事業費削減の余地）

【前年度内容】令和7年4月実施に向けたイベントPR等の支援を実施した。本事業は地元の事業所及び住民の協力が醸成から、地域文化を育むという観点において評価できる。

(4)今後の事業の方向性

□廃止 □縮小 □事業のやり方改善 □現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）